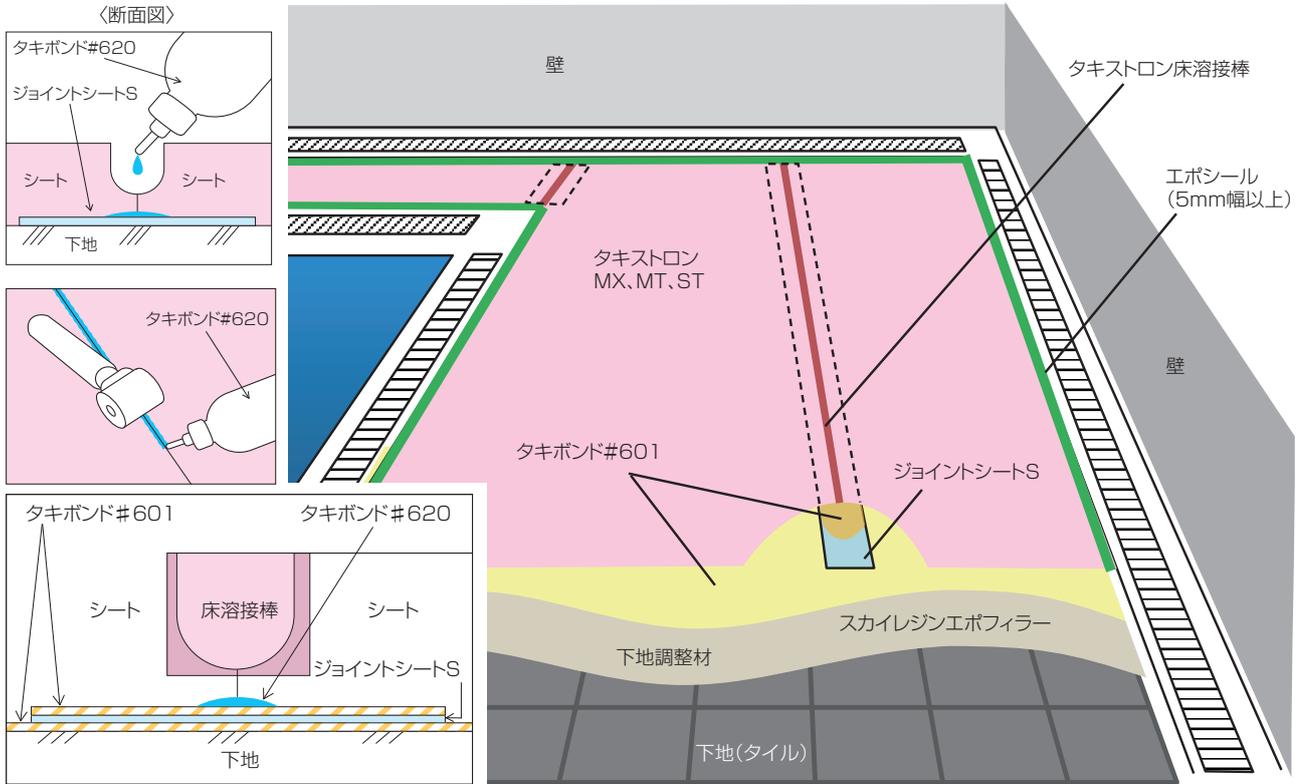




下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下(気温・下地)にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

納まり図



工程	使用材料	ポイント
下地補修	下地調整材 大日化成(株)製 スカイレジン エポフィラー	既存タイル下地を高圧洗浄等で汚れを除去する。 タイルの割れや不陸等がある場合は事前に補修を行う。 スカイレジンエポフィラー使用方法 ・容器に硬化剤(液体)を入れ、攪拌しながら主剤(粉体)を少量ずつ投入し混合する。 ・混合時は出来るだけ気泡の混入を抑えながら十分に攪拌する。 ・コテ塗りでの総塗厚が1.5~3.0mmとなるように出来るだけ平滑に仕上げる。 ※必ず2度塗りで施工する。1回目は目地を埋めるように全面シゴキ塗り(0.5~1.0mm程度)、2回目で平滑に仕上げる(1.0~2.0mm程度)。

下地の補修・清掃	-	下地補修後、不陸等ないか確認し、砂・埃塵など除去する。 下地補修の養生は8時間以上確保する。
仮敷き	ジョイントシートS タキストロン MX, MT, ST	<ジョイントシートS> 継目部は 突き付けとし、隙間が生じないよう、また重ならないように注意する。 <タキストロン> 継目部は 突き付けとし、隙間が生じないよう、また重ならないように注意する。 タキストロンの継目がジョイントシートSの 中央になるように仮敷きする。
接着剤塗布	タキボンド#601	ジョイントシートSとタキストロンをすれないように折り返し、 接着剤を塗布ムラが生じないように均一に塗布し、オープンタイムを取る。
張り付け	ジョイントシートS タキストロン MX, MT, ST	ジョイントシートSを張り付け、シワが入らないようにローラーで圧着する。 その後タキストロンを張り付けて圧着する。 (しごき圧着、エア抜きを十分にを行い、端部はハンドローラーで圧着する。) ※ジョイントシートSの上にもタキボンド#601を塗布すること。
継目処理	タキボンド#620 タキストロン床溶接棒	タキボンド#601硬化後、タキストロンの継目部にU字溝を設ける。 継目部にタキボンド#620を流し込みし、ローラーで圧着を行う。 タキストロン床溶接棒を用い、熱風溶接で処理する。
端部処理	エポシール	端部をエポシールで処理する。(5mm幅以上となるように) ※タキストロン端部断面及び、平面にかかると打設する。

※プラスケアMJは使用できません。

(20℃)	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#601	30~40分	60~70分

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス・
注意
P.333